

安全と衛生の講演会のご案内

2013年2月28日

尼崎労働者安全衛生センター

議長 松原 保

まだまだ寒さの厳しい中ですが、皆さまはいかがお過ごしでしょうか。

安全センター会員の労組から「うちの職場に腰痛が癖になっていてぎっくり腰を繰り返す労働者がいる」という発言がありました。他の労組からも同様の発言があり、労災申請などの議論も大切ですが、講演会を開催し、以下の3点に絞ってお話をしてみたいと思います。

- 1 どのようにしたら腰痛になるのか
- 2 腰痛にならないようにするためには
- 3 もしなってしまうても繰り返さないためには

「事務職の方々も腰痛持ちの方が多い」という問題提起もあり、かなり沢山の労働者が悩んでいることだと思います。

講師曰く「最近腰痛の仕組みがわかってきた」「当日は睡眠時に腰痛を防ぐアイテムを紹介する」とのことです。腰痛をお持ちの方、腰部保護帯「スーパーリリーフ」の考案者宇土先生と、治療や完治しなくても上手に付合う方法を一緒に考えましょう。

「私は大丈夫」と思っているあなた、“健康は失って初めてわかる宝物”ですよ。腰痛と縁のない人生を送る術を学んで下さい。

どなたでも参加できます。皆さまのご参加をお待ちしております。

記

【と き】3月29日（金）午後6時～8時

【テーマ】「辛い腰痛とどう向き合うか」

【講師】宇土博さん（友和クリニック院長、広島大学医学部臨床教授）

【ところ】尼崎市立労働センター（尼崎市東難波町4丁目18番23号）

TEL 06（6482）6180

参加費無料

連絡先 事務局 塩見・飯田まで

TEL&FAX:06-4950-6653

講師プロフィール



宇土 博（うど ひろし）

友和クリニック院長、日本新経絡医学会長

プロフィール：1949年広島県生まれ、広島大学医学部卒業後、産業医として長年勤務。その間これまでの経絡学説を整理・発展させ、新経絡治療を確立し、2011年7月1日、日本新経絡医学会を創立。現在、クリニック診療の傍ら同治療の普及に尽力している。広島文教女子大学院福祉工学教授、広島大学医学部臨床教授も務める。

《宇土先生からのメッセージ》

私どもは産業医という立場から、人間工学に基づいて人間に優しく使いやすい製品をテーマにいろいろな物を開発してまいりました。

筆記時に頸、肩や腕にかかる筋肉への負担を軽減するボールペンである、あの有名な**ドクターグリップ**を開発し、1991年にPILOT社から販売しました。



人間工学に基づき物を作るということは、ユーザーの求めている価値をアイデアとしてどれだけ体現できるかだと考えております。

その考えを基に開発を続け、茎や枝を切る際に手指への負担を4分の1に軽減した**ドクターカット**と呼ばれる園芸用はさみと、デスクワークを長時間続けながら腰部の疲れを和らげる**ドクターチェア**と呼ばれるオフィスチェアを世に送り出しました。こちらも、好評を得ております。

また、疲れがとれ朝すっきり起きることができる**ドクタームーブ**という布団も開発しました。ぜひご使用して頂ければと思います。

最後にですが、私どもはこれからも人間工学を考えながら、人々の健康に貢献していく所存です。

【なぜお医者さんが、ボールペンや椅子を開発？】

今はもちろん、これからもますます少子高齢化が進みます。この社会を楽しく・快適に乗り越えるためには、どうすれば良いか？

私は友和クリニックで、職場で起こる頸肩腕障害（けいけんわんしょうがい）や腰痛の予防・治療を行っています。

患者さんの苦勞を少しでも和らげ、予防できる製品を開発したい、その製品で働く環境や生活環境を少しでも改善したい！と思い、(有)ウド・エルゴ研究所を立ち上げ、人間工学を応用した支援機器の開発研究に取り組んでいます。「人間工学に基づく」「ひとに優しい」そして「使いやすい」製品の開発。それが開発のキーワードです。

(<http://nbcakinaichiebukuro.blog27.fc2.com/blog-entry-9.html> より抜粋)